藩政日記を調査するⅡ

丹波篠山市史編さん

近世編専門部会による藩政史料の調査合宿

今年も８月６日から８日までの３日間、夏の調査合宿が行われました。近世編専門部会の指導のもと、歴史学や社会学を専攻する大学生・大学院生13人と、地域資料整理サポーターで調査が進められ、およそ190点の史料について目録を作成することができました。

問い合わせ　市史編さん課(西紀支所２階)☎593-1070

今回調査した史料

青山家に仕える家臣が、家老や右筆(ゆうひつ)、町奉行といった職務の中で日々の出来事を記録したおよそ200年間の公務日誌群

地域の大庄屋宅に残されている古文書と照らし合わせることで、当時の藩の支配のありようや、人々の生きざまを知ることができます。

さらに、藩主が老中・大坂城代・京都所司代などの幕府要職に就いた際に作成された日記以外の記録なども含まれ、篠山藩が江戸時代の日本でどのような立ち位置にあったのかを探る貴重な手がかりとなっています。

こんな記録がありました

❖他所への出稼ぎ禁止令　寛政５(1793)年

１月23日に、男女奉公人が他所に出稼ぎに行くことを禁止するお触れを出しています。松平定信(さだのぶ)による寛政の改革で公儀(幕府)から出された出稼ぎ禁止令を受けたものと思われ、篠山城下の町の出来事に関する記事が多いことから、篠山藩の町奉行所が作成した記録であると考えられます。

寛政五年日記(かんせいごねんにっき)

❖孝明天皇葬儀の勤番中日記(こうめいてんのうそうぎのきんばんにっき)　慶応３(1867)年

葬儀の際、篠山藩は勤番・火の番の役を命ぜられ、拝命の日から葬儀を終えた日までの役割やしきたりなどが、14代藩主・青山忠敏(ただゆき)の名前で記録されています。孝明天皇の葬儀については、複数の家臣宅の古文書からも記録が見つかっていることから、当時は大変大きな出来事だったとうかがえます。

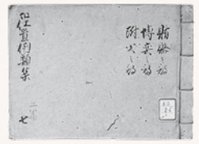
孝明天皇御新葬之節泉涌寺勤番中日記(こうめいてんのうごしんそうのせつせんにゅうじきんばんちゅうにっき)

❖雨乞いのこと(あまごい)　寛政11（1799)年

干ばつのため、藩が天台・真言両宗に依頼し、春日神社で雨乞いの祈禱(きとう)が行われたことが書かれています。雨乞いは通常、村ごとに藩に届けが出され執行されるものですが、そのかいもなく日照りが続くと、藩として雨乞いをすることもありました。

❖裁判の判例集

篠山藩12代藩主・青山忠裕(ただやす)は文化元(1804)年から32年間、徳川家斉(いえなり)のもとで老中を務め、日本各地のさまざまな事件の裁きについて事件の内容と仕置きを収集し、判例としてまとめました。実際の事件について、背景も含めた裁きがまとめられ、近世の法制史を研究する上で重要な史料であると考えられます。



御仕置例類集(おしおきれいるいしゅう)

調査に参加した学生の声

「藩政日記が長期にわたって大量に残されていることに驚いた」

「他大学の学生や先生とかかわることができ、とてもよい経験になった」

「村内でのもめ事や、ささいな事件などがどのように報告、認識されていたのかを読み取ることができ、とても面白かった」

日記からは青山家の統治手法の変化を読み取ったり、職制の多様化を知ることができたりします。調査の成果を市史の本編に反映し、青山家文書の公開や活用に向けて、必要と思われる環境整備へつなげていくことが求められています。

松本充弘(まつもとあつひろ)さん
(神戸大学大学院特命助教)

今後史料の展示や調査報告会などを開催する予定です。詳細決定後、広報紙などでお知らせします。

広がっています　黒大豆の“わ”

日本農業遺産認定

丹波篠山の黒大豆栽培・300年の歴史

300年以上前から続く、日本農業遺産に認定された丹波篠山の黒大豆栽培をはじめとする農業の営みは、私たちの生活の中に根付いています。

今回は、市内各所で取り組まれている黒大豆を生かした取り組みの一部を紹介します。

問い合わせ　農都政策課☎552-1114

1　丹南中学校

地元の魅力を確認し、郷土愛を育むことや工夫する力を養うことを目的に、技術の授業で２・３年生がプランターでの黒大豆栽培に挑戦。JA丹波ささやまの指導のもと、収穫に向けて作業が進められ、元気な黒大豆が学校いっぱいに育っています。

2　篠山小学校

育成会で「五感で感じる篠山キャンプ」を実施。黒大豆の歴史や栽培方法、魅力などを学習した後、調理実習で黒大豆の煮豆をトッピングした和風パフェを作ったり、キャンプファイヤーをしたりして友達との絆を深めました。また、食べ物は「丹波篠山産」にこだわり、住んでいる地域への理解が深まりました。

3　城北畑小学校

PTAが「黒大豆」をモチーフにしたオリジナルキャラクターが背中にプリントされた法被を作成。それを着た児童たちがデカンショ祭に参加しました。キャラクターは児童会が全校生から募集し、投票によって決定しました。

デザインを考えた西羅沙耶(にらさや)さん(右)

上記のような農業遺産を生かした取り組みを支援します

市では農業遺産を生かした取り組みに対して補助金を交付し、活動を支援しています。詳しくは市ホームページをご覧ください。

補助額　上限10万円

補助対象の活動例

- 学習会、講習会、栽培実証
- 新商品開発、PR資材作成
- 郷土料理普及活動、食文化研究
- 生きもの調査、生態系に配慮した環境整備
- 灰小屋の利活用、修復

市ホームページ

10月中旬から　森のタンブラー KUROMAME 販売！

原料の51％は丹波篠山の黒大豆を収穫したあとの**豆がら**。コンタクトレンズ工場のリサイクルプラスチックと混ぜて**脱・石油由来プラスチック製**のタンブラーを製作しました。※販売店やセット価格などは、農業遺産ホームページをご覧ください。

農業遺産

＼マイタンブラーとして使える！／

- 耐熱温度は120℃。温かい飲み物でも冷たい飲み物でもOK
- イラストは実物大の丹波黒大豆

参考価格 **1,300円**(税込)